

UMOUが変われば、世界が変わる。

あなたの資源を、次の世代へ。

Recycling the down, can change the world.

Sustainable resources to the next generation.



Green Down Project について

**私たちが回収し、「Green Down」を作ります。
あなたのチカラが必要です。**

一企業の技術だけでは、「羽毛循環サイクル社会」は実現できません。
羽毛に関わる企業をはじめ、地域社会、そして生活者一人ひとりの理解と
協力で作る羽毛循環システム。それが、Green Down Projectです。

羽毛製品はGreen Down Projectに加入するメンバーによって、回収、精製され、
再び新たなGreen Down製品(リサイクルダウン製品)に生まれ変わります。

〈羽毛循環サイクル社会〉



Green Down について

リサイクルした羽毛というイメージから、Green Downは新毛よりもキレイさでは劣ると思われるかもしれません。

しかし、実際にはGreen Downは一般的な新毛よりもキレイなのです。

回収した羽毛製品から取り出された羽毛は、新毛と同じ洗浄ラインを通して汚れやホコリが徹底的に取り除かれます。さらに、羽毛というのは米の研ぎ汁と同様に、羽毛同士が擦れ合ううちに、どんどん垢がはがれていきます。そのため長年羽毛製品を使っていると、その間に羽毛同士が擦れ合って残留垢がきれいにはがれ落ちていきます。

その羽毛製品を回収して、中から取り出した羽毛を羽毛洗浄会社で洗浄回復処理を施すことによって、新毛よりもキレイなGreen Downに生まれ変わります。

羽毛清浄度検査

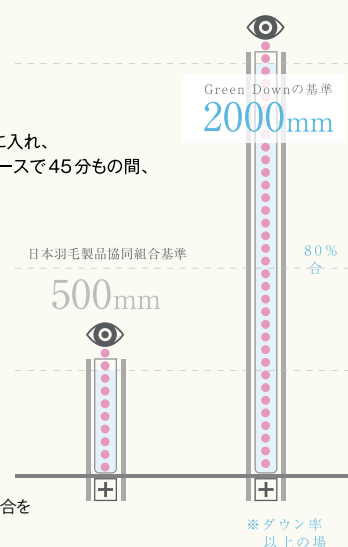
(JIS L 1903)

検査条件

精製加工後の羽毛3gを300mlの純水に入れ、振とう幅40mmで1分間に150回のペースで45分間の間、激しい振とうをさせ取り出した液体を透視度計に入れて計測します。

※Green Down Projectが品質の基準を設定。

- Green Downは、ダウン率80%以上の場合は清浄度（透視度）2000mm以上を基準とする。
- Green Downは、ダウン率50%以上80%未満は清浄度（透視度）1000mm以上の場合を基準とする。



対象商品について

対象商品の見分け方



表地	ナイロン	100%
裏地	ナイロン	100%
中わた	ダウン	90%
	その他の羽毛	10%

クリーニング店でのウェットクリーニングをお勧めします。家庭用洗濯機のご使用は避け下さい。すすぎ洗いは十分にして下さい。高温洗浄、高温乾燥は避け下さい。中の羽毛を均等にほぐし十分に乾燥させて下さい。高温多湿、蒸れた状態での保存は避け下さい。長期保存される場合はハンガーに吊って保存して下さい。

カスタマーサービスセンター
MADE IN JAPAN

- ・Green Down Project「VIRGIN DOWN」のハングタグ(吊り札)が購入時に付いている商品
- ・上記のハングタグが付いていない商品でも品質表示の組式に「ダウン」の表示がある商品

対象商品の受付方法

回収方法は窓口によって異なります。詳しくは公式サイトをご覧くださいませ。

公式サイト: www.gdp.or.jp

回収窓口の例



〈レジカウンター〉



〈郵送〉



〈フェスティバル〉



〈回収BOX〉

Green Down Project for SDGs

SDGs の 17 目標は相互に関係しています。1つの目標に取り組むことが、他の目標にも影響を与えます。また、これらの目標への取り組みを通じて、包摂的で持続可能な経済成長と社会的課題の解決を両立させることができます。

SDGs とは

2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた 17 の「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、普遍的で、すべての国とすべての人による行動を必要とする世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」というメッセージのもと、経済成長、社会的包摂、環境保護という 3 つの要素を調和させることが不可欠です。

持続可能な生産と消費のパターンです。



「使わなくなった羽毛製品を捨てない」という消費者の行動から始まる、バリューチェーン全体におけるしくみです。明確な基準や統一の表示を通じて、消費者に誠実な情報提供を行っています。

障がい者の雇用が生まれます。



障がい者や働きづらさを抱えた人々に就労の機会を提供することを通じて社会参加を促していくことを目指しています。持続可能な経済成長の実現のため、包摂的で働きがいのある仕事づくりを行っています。

環境を守ることができます。



羽毛循環リサイクルのしくみを構築することを通じて、CO₂の排出を抑制することを目指しています。温室効果ガスの排出量を抑えることで、気候変動の具体的な対策となります。

柔軟かつ強靱な羽毛産業基盤を構築します。



質の高い羽毛の安定的供給を可能にします。羽毛の需要が年々増加する中、新毛として利用できる羽毛の量は安定的ではありません。羽毛洗浄企業の技術革新により、質の高い再生羽毛を供給することができます。

協働で付加価値を創造するプラットフォームです。



羽毛に関わる多様な企業、地域社会、そして生活者一人ひとりの理解と協力により羽毛循環リサイクルのしくみがつくられます。多様な組織や人々が関わるからこそ生まれる創造力とイノベーションを発揮していきます。

捨てないで！ モツタイナイ！

いま、ダウン(羽毛)の供給量が減っています。
ダウンは、限りある資源です。



使わなくなった羽毛布団、着なくなったダウンジャケット。
お家で眠っている羽毛製品はありませんか？
不要になった羽毛製品はリサイクルすることによって、安全な
「Green Down(再生羽毛)」へと生まれ変わります。

環境保全

羽毛サイクルは環境を守ることができます。

羽毛はハードケラチンというタンパク質でできており、1.0kgの羽毛を燃やすと焼く1.8kgの二酸化炭素が発生します。ゴミとして燃やさずにリサイクルすることで、それだけ長い間、炭素を羽毛の形のままで固定できるので、二酸化炭素の排出を抑制できます。



羽毛布団は年間300万枚以上

2015年の統計によると、国内で生産されている羽毛布団は年間約120万枚、輸入される羽毛布団は約190万枚にのぼります。およそ毎年300万枚の羽毛布団が日本国内で扱われていることになります。日本では高度経済成長期ごろから羽毛布団が一般家庭に普及し始め、現在では多くの家庭に広く普及しています。

また、1980年代以降、ダウンジャケットなどの羽毛製品がファッションとして流行し、一般的な防寒着として定着してきたことで、羽毛はより身近な素材として認識されるようになりました。



Green Down の高いポテンシャル

防寒という機能のみならず、環境という視点からもサステナブルな素材である「羽毛」。羽毛に対する世界的な需要は年々上昇する一方で、食品産業の副産物として新毛で利用できる羽毛の量（供給量）は減少しています。また、世界的な経済状況や鳥インフルエンザ等の影響を受けることから価格も不安定になりがちです。

羽毛製品が広く普及し、大量に販売され、消費される一方で、廃棄される羽毛製品の量は年々増加し、今後もその傾向にあると予想されます。

安定しない価格と供給

原料の供給源である中国等では、急速な経済成長や食糧事情の変化、度々発生する鳥インフルエンザの影響、そして、アヒルやガチョウに対する強制給餌への批判、生きたまま羽毛を採取するLive Pluckingの禁止といった理由から、バージン原料としてのダウンの価格や生産量が安定しないという状況があります。



粗大ごみで排出された「ふとん」はほとんどが焼却されている

廃棄される羽毛製品は増加中

現在、羽毛製品は日本国内において非常に広く普及しました。しかしながら、どのような製品にも、耐久年数＝寿命があり、永久に使い続けることは現実的ではありません。一般的には羽毛布団の寿命は10年～15年と言われており、寿命が尽きた羽毛布団は多くの場合、粗大ごみとして家庭から排出され、自治体によって回収され、廃棄物として処理されています。粗大ごみとして回収された羽毛布団の多くが焼却処分されています。

東京都23区内で回収され処理された粗大ごみ「ふとん」の枚数は2012年度約79.9万枚だったのが、2015年度には約94.5万枚まで増加しています。3年で約15万枚（約18%）の増加です。この全てが羽毛ふとんではありませんが、羽毛ふとんの普及率を考えると、相当数が含まれていることが想像できます。

羽毛布団を始めとする羽毛製品が大量に焼却されている現状は、裏を返せば、日本国内にける羽毛リサイクルのポテンシャルの現れでもあると言えます。

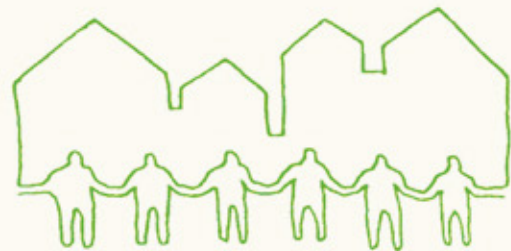
GreenDownProjectは、独自の回収と羽毛を再生する技術によって、ごみとして焼却されてしまうかもしれない羽毛製品から羽毛を取り出し、GreenDownとして再生することで、環境を守りながら、安全できれいな羽毛を安定的に供給することができます。

世界が変わる？

「羽毛循環サイクル」の実現は、豊かな社会を生み出します。

2016 年に障がい者差別解消法が施行され、また、2018 年 4 月には障がい者雇用促進法の一部改正に伴い、法定雇用率が 2.0% から 2.2% へ、2020 年には 2.3% まで高まることになりました。

このように企業の法的責任がより一層強まる中で、企業の人事担当の方にとってみれば「採用の際に何を配慮すれば良いのか」「どのような仕事を切り出せば良いのか」、「その他のスタッフがうけいれてくれるのだろうか」など、不安が尽きないとの声も同時に寄せられています。また、障がい者雇用は義務であり、コストとして捉えている企業も少なくありません。こうした状況のなかで、GreenDown Project では、障がい者もかけがえのない人財であること、そして、障がい者雇用を通して企業の持続的発展につながる社会的事業を推進していくことも一つの目標にしています。



羽毛は環境負荷が低い

羽毛は食品産業の副産物であると同時に、食品産業における廃棄物でもあります。しかしながら、本来、廃棄物であった羽毛を利用すること自体は、資源を無駄なく使用するという観点からも無駄のないサステナブルな行為です。

また、羽毛は天然由来の素材であり、羽毛を使った製品は合成素材を使用するよりも、環境負荷が低い素材だと言えます。

障がい者就労支援・地域貢献

羽毛サイクルで障がい者の雇用が生まれます。

わたしたちは、障がい者就労の機会を組み入れた、羽毛循環システムを構築します。

障がい者の自立・共生・共働を支える取り組みで、日本全国に支援の輪を広げる活動を行っています。

3つの取り組み

- ① 羽毛製品の回収・解体作業
- ② 復興支援の一助を担うための羽毛製品の生産活動
- ③ 会員企業の社会的事業の共同開発

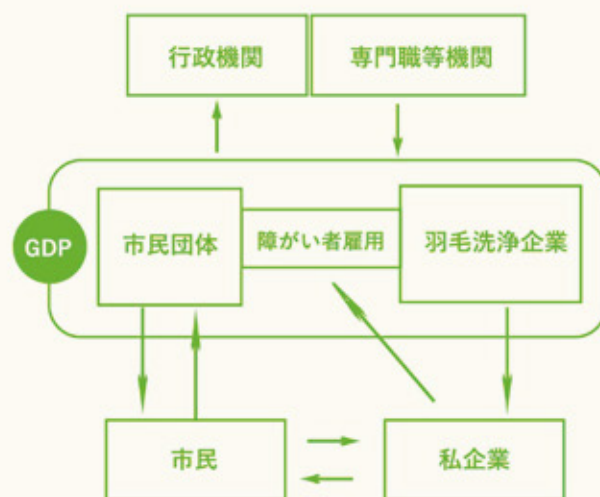


現在は①について、モデル事業を始めています。三重県明和町に所在する河田フェザー株式会社内において、明和町社会福祉協議会の障がい者作業所から4名の利用者を派遣してもらい解体作業にあたってもらっています。この就労モデルを全国に広げていくことを計画しています。②については、福島県郡山市の中小企業同友会の有志メンバー、また、被災地に所在する障害者の作業所ネットワーク組織である NPO 法人しんせいをはじめとする市民組織、行政機関などとともに、災害時に必要な備蓄品の商品開発などを通して雇用開発を行うための研究会を立ち上げ、事業化に向けた取り組みを2017年5月より始めました。③については、会員企業が抱えている課題（服飾品の在庫など）を障がい者の就労機会を生み出しつつ、社会的価値に基づく事業化を通して解消するための事業プランを立てることや、すでに展開されている商品ラインの業務分析を通して、障がい者の雇用環境を整えていく取り組みを多様な専門職の方々とともに展開しています。

派遣型就労機会の場づくり

障がい者が働く環境づくりにおいては、交通アクセスの問題をはじめハードと人事管理や医療や福祉的な支援などソフトの両面からアプローチしていく必要があります。また、企業の立地にもより、暮らしの場と切り離された場所で働くことが障がい者の大きな負担になる場合もあり、全国的にも定着率が低位にある要因にもなっています。そこで、障がい者にとって働きやすく、従事しやすい業務をケースに合わせて考慮しながら実施してきた①の取り組みや、現在プランニング段階である②の取り組みについて、弊社では派遣型就労の場として会員企業に提供できるようにモデル開発を進めています。

派遣型就労とは、会員企業が雇用契約を結んだ障がい者を派遣する形態をとって、①や②の作業に従事してもらう仕組みのことです。例えば、都内で羽毛商品の回収・解体作業の現場をつくり、グリーンダウンを使用する会員企業が雇用契約を結んだ障がい者を派遣するという就労のあり方や郡山市の作業所で働いていた利用者を会員企業の雇用契約に切り替えることで、法定雇用率に算入される仕組みのことです。この仕組みを一つステップにしながら、③の取り組みに展開し、企業の成長にとって欠かせない事業に障がい者が参加できる機会を創出したいと考えています。



UMOUは変わる。

限りある羽毛→不要になった羽毛製品→
「Green Down(再生羽毛)」へ生まれ変わります。
羽毛はリサイクルできる循環資源です。



限りある羽毛
(Virgin Down)



不要になった
羽毛製品



再生羽毛
(Green Down)

エシカルファッションとしての可能性

人権・環境・動物に配慮したGreen Down

Green Down Project では、エシカルファッションの理念に基づき、製品を製造します。
羽毛の再生が、労働者の人権の厳守・ゴミ削減・地域活性・動物への配慮を可能にします。



UPCYCLE



SUSTAINABLE
MATERIAL



LOCAL
MADE



ANIMAL
FRIENDLY



©EFJ

SOCIAL
PROJECT

PROBLEM

大量生産大量消費

国内で発生する繊維廃棄物は年間で 170 万トン、全廃棄物の 2% を占めると言われています。未使用の布や衣料の方が使用済みの衣料より多く無駄が出ている現状があります。

使い捨て文化

使い捨て文化の定着により、再利用されずに新しいものを使用する傾向が強くなっています。そのスピードは日々加速し、ごみの量が増え続けています。

海外生産の増加

アパレル産業のサプライチェーンにおいて海外移転・依存が高まるにつれ、産業の空洞化、それによる技術の流出が問題視されています。また日本国内では主要都市に人口が集中し、地方の過疎化が深刻化しています。

動物虐待

ファッション製品の使用される毛皮や皮などは、本物が高価な値段で売買されています。こうした需要の高まりとともに、命を落とし破棄される動物が増えていく現状があります。

格差社会

格差の広がりによるしわ寄せが立場の弱い人々に押し寄せ、国内外問わず貧困問題が深刻化しています。

SOLUTION

廃棄回収と使用

捨てられるはずだったものを活用することを「アップサイクル」と呼びます。捨てられるはずだった羽毛布団やダウンジャケットを回収することで、ゴミの削減ができます。

持続可能素材

Green Down はつかいすての一方通行ではない使い捨ての循環システムに基づき生産される、環境負荷がより低いサステナブルな素材です。

地域生産

地域に根ざしたもののづくりで地域産業・産地を活性化させ、雇用の創出、技術の伝承と向上を目指します。ダウンの回収や洗浄工場での労働に対して、地域社会と連携して、プロジェクトの推進を測ります。

動物配慮

羽毛をリサイクルすることで、新しい命を削ることなく、羽毛を活用することができます。すでに世にある羽毛を再生し、長く使用可能にすることで、水鳥たちの命を守ることができます。

社会的貢献

Green Down Project は障がい者など就労困難な人々の社会参加を促進するため、誰もが働きやすいユニバーサルワークの実現を目指して活動を展開しています。

背景

羽毛は食肉用の水鳥から採取された再生可能資源ですが、多くはゴミとして焼却されてきました。また、急激な需要増加を背景に羽毛採取のみを目的とした水鳥を飼育し、依然としてライブハンドピッキングが行なわれている事実もあります。また、人体への影響が懸念される薬品を使用する例も後を絶ちません。命の尊重と自然環境に資する循環型ビジネスモデル確立の必要性を感じたことが契機となり、羽毛製品の適正処理・再資源化のシステムづくりを目的としてGreen Down Projectを設立いたしました。この取り組みに共感する企業を募り、リサイクルした羽毛、Green Down（グリーンダウン）の品質基準設定や周知・啓発をすすめています。

理念・ビジョン

羽毛は、軽くて温かい特殊な天然素材です。また温度や湿度を調整する機能も兼ね備えております。羽毛は食肉用に飼育された水鳥の副産物であり、その供給量は世界的な食肉市場の変化や鳥インフルエンザ等に大きく左右されてしまいます。将来にわたり多くの生活者へ安定的な供給を続けていくために、日本国内で羽毛を循環させるしくみを確立し、その普及をめざしています。

ミッション

回収した羽毛をリサイクルし、限りある資源の有効活用を目指します。不要になった羽毛を焼却せずにGreen Downとして再利用することは、二酸化炭素排出の削減につながります。Green Downは清潔で、安心して使用できる素材であることを広く生活者に知ってもらい、羽毛の回収と再利用への取り組みを会員企業や団体などと協働し社会に浸透させることをミッションとしています。

一般社団法人 Green Down Project

〒515-0303 三重県多気郡明和町山大淀3255番地
TEL: 0596-34-1881 FAX: 03-6735-7378
info@gdp.or.jp

東京オフィス

〒114-0014 東京都北区田端6-4-22 ビームウッド高野 D号室
info@gdp.or.jp

